

# 平成21年度 第1回学校会議報告書

日時：平成21年6月22日（月） 18:00～20:00

場所：中館1F 研修室

## 参加者

- 生徒代表 宮房由衣（生徒会長）、川田千緩、岡礼華（副会長）、松本惇平、泉川淳奈（3年代表）、青木拓、多田裕也（2年代表）、石田和輝、久保和幹（1年代表）
- 保護者代表 西村政高（PTA会長）木村昌枝、八十川勝彦、細川正浩（副会長）竹内伸枝（3年保護者代表）、坂本容子（2年生保護者代表）、石濱典子（1年生保護者代表）
- 教職員代表 野崎泰博（校長）、天野徹、田村博之（教頭）、八木泰彦（事務部長）、竹下卓慶（教務主任）、谷豊（生徒指導部）、溝渕正起（特別活動部）多田正志（総務部）谷畑祐二（研究企画部）
- 事務局 河内凜（生徒）、山本知江美（保護者）、鎌田高明、英陽子、松尾美紀（教職員）
- オブザーバー 生徒24名 保護者9名 教職員5名

## 【会次第】

- 1) 学校長挨拶
- 2) 代表者自己紹介
- 3) 議長選出（事務局の鎌田高明が議長に選出）
- 4) 議事

### ◇議題1 ロッカーの使用について

- 議長：まず、前回のH20年度第3回学校会議での、「なぜ教科物件を持ち帰らなければならないのか」という生徒からの質問に対し、教職員からの統一見解としての意見を回答してもらいます。
- 教職員：教科物件は本来家庭で保管すべきもの。家庭学習のため持ち帰るべきもの。ロッカーは公共の場。生徒はどう考えるか。
- 生徒：生徒が提案して決まったルールなので、きちんと持ち帰るべき。少しずつでもいいので持ち帰れるように努力したい。
- 教職員：すばらしい意見である。ただ、体操服・作業着・体育館シューズなどは、盗難・悪戯・紛失を考慮した上で、実状に合わせて、自己判断の下に持ち帰らないことも認める。
- 生徒：それで結構です。
- 議長：これまでの流れを見ていて、保護者からはご意見はありますか？
- 保護者：3月の学校会議でのアンケート結果を見て、きちんと持ち帰って勉強できていないという実状が分かり、非常に悲しい思いがした。学校のホームページにH18・H19のロッカー導入までの課程の議事録があるので、それを見て、導入までにどんなやりとりがあってルールが決まったのか知った上で、この件について良く考え、生徒みんながルールを守ってほしい。
- 保護者：ロッカー設置の際に、生徒が主体になって決めたルールを今になっても守れてないのが現実。「頑張ります」だけでは改善されるとは思えない。解決のためには、生徒が自らここまでできるという意思表示をすべきだと思う。生徒側が具体的に提案をして、それについて、罰則を設けるということも考えてはどうか。
- 生徒：生徒間で話し合いをしたときに、「持って帰っても勉強しない」「テスト期間中でも勉強する教科しか持って帰っていない」という意見が聞かれた。自分としては、机・ロッカーは自分の場所という意識があり、公共の場という意識は持てないのが本音である。
- 教職員：前回の学校会議で提示された、家庭学習に関するアンケートで、平常日に学習時間がゼロという生徒が7割を占めていた。これは教職員としては見逃すことはできない。家庭学習を習慣化してもらうためにも教科物件は持ち帰ってもらいたい。また、ロッカーには鍵がないため、盗難・悪戯・紛失も心配であるし、そもそも学校に必要なものを家庭から持ってくるのが筋である。使わないものがあるのなら、家庭で保管するべきである。また、過去を遡っても、教科物件は持ち帰るべきという前提があって、H17の学校会議で通学用の指定鞆を廃止

したときにも、代わりの鞆は「1日の教科物件が入る大きさのもの」という条件があった。教科物件の持ち帰り  
がうやむやになると、その取り決めまでうやむやになる。

- 生徒：自分は雨の日以外は自転車通勤で通学していて、6時間分の教科物件を持って急な坂道を自転車で行き来するのは非常に大変である。
- 保護者：意見を言うことは大切である。しかし、学生の本分は勉強なので、勉強しないで持ち帰らないということや、重たいので持ち帰らないというのは受け入れられない。きちんと持ち帰って勉強して欲しい。教職員もそうだろうと思う。
- 議長：本音で語ることは重要である。お互いが本音で語れると言うことは素晴らしいことで、議論をより深めることができ結構である。ただ、これは3者で合意したルールなので、生徒側が、きちんと守ったうえで、どうしても無理だということになれば、また本音で議論しあう必要があるだろう。
- 教職員：本音と言えば、持って帰って勉強して欲しい。これも教職員としての本音です。
- 保護者：保護者の中にもいろいろ意見はあるだろうが、学生の本分は勉強であって、部活が忙しいとか、他のことに一生懸命だから勉強が疎かになるというのは納得できない。
- 生徒：持って帰れば勉強するかというのは疑問であり、先ほど述べたように、ロッカーを公共の場とも思えない。ただ、先輩方が決めたルールなので、尊重して守らなければいけないという気持ちはある。
- 生徒：勉強するものだけ持って帰るとするのはだめなのか。
- 生徒：先生方が学生時代には、本当に持って帰って勉強をしていたのか？
- 生徒：正直持って帰らなくてもいいのではないかと思っていたが、話を聞いていて、盗難や悪戯も怖いので、持ち帰るべきだと思った。
- 生徒：前回の学校会議での話し合いを経て、3者合意で決まったルールの重たさを知り、持ち帰るようになったが、思ったほど大変ではなかった。みんなも実際に持ち帰ればそれほどでも無いことが分かると思う。ただ、持ち帰ってはいても、勉強しているわけではない。
- 生徒：同じく、持ち帰るようになったが、頑張って持って帰っても、それを誰が褒めてくれるわけでもなく、そういう点が生徒にとって持ち帰りを困難にしている一因ではないかと思う。
- 保護者：本来、ロッカー設置は体操服などの置き場所の設置が本筋であったはず。持ち帰って学習するかどうかではなく、持って帰るべきである。教科物件を家から持って行くというのが本来のあるべき姿である。
- 保護者：自分は学生時代、全て持って行って持って帰っていた。部活動はしていなかったのもそれほどの荷物の量ではなかったかもしれない。部活の道具は重くても、それはトレーニングの一環だと考えるなど、考え次第で、1日分の教科物件はさほど荷物にはならないはずである。
- 保護者：なかなか保護者や教職員の思いが生徒に伝わらないのが歯がゆい思いである。大っぴらに勉強しないから持って帰らないと言われると、親としてはつらい。我が儘に聞こえる。我が子なら叱る。
- 教職員：3者とも色々な考え方があり、個々の意見を発表していてもキリがない。最初に合意してもらったはずなのだが、また議論の必要があるか？
- 議長：再確認するが、生徒側としての返答はどうか？
- 生徒：実際に持ち帰れていない状況では強く主張することはできない。3者合意で決まったルールは大切なものだと思うので、まずみんなが持ち帰りを守れるよう努力していきたい。

#### ◇議題2 学校会議のあり方について（教職員）

- 教職員：学校会議がスタートして5年目を迎えたが、そのあり方についての様々な問題点が指摘されている。学校会議に関するアンケート結果を見ると、3者とも3者で話し合うことに意義を感じているが、特に教職員は、その運営方法については改善の余地があると感じていることが伺える。学校会議の良い点・悪い点・改善案をそれぞれの立場で述べて頂くことで、今後の方向性が見えてくるのではないかと思ひ、議題として提出させて頂いた。
- 議長：今日答えがでるとは思えないので、議論を深めていく中で、過去の問題点を持ち出すのではなく、今後どうしていくのがいいのかという前向きな話し合いができればと思う。まずは、生徒の側から、教職員からの提案書の中の問題点についてどう考えるか、また、他にもこんな問題点があるなどという意見を述べて欲しい。

- 生徒：学校会議は生徒が唯一意見を聞いてもらえる場で、他校にはない良い制度だと思う。生徒が教職員や保護者と同じ席に並んで話をできる場で、貴重である。
- 生徒：オブザーバーにも発言権を持たせることで、関心をもってもらえるのではないかと思う。
- 生徒：「達成感がない」という問題点については、生徒側と先生側の「達成感」にずれがあるためだと思うが、先生側からみた達成感がよく分からない。
- 生徒：「時間がかかりすぎる」のは当たり前。「回答や実施に時間がかかりすぎる」という意味がよく分からない。
- 生徒：参加者以外の関心が薄いのは3者とも同じではないか。
- 教職員：時間がかかりすぎるというのは、システム的な問題であって、生徒からの回答が遅いと責めているわけではない。すでにロッカーが導入され、運用されているのに、ロッカーのルールについて話し合っているというのも妙な状況であるし、携帯電話の許可の例でいえば、志度高が学校会議で長い時間をかけて議論している間に、後から検討を始めた他校が先に実施し始めたなどということもあった。
- 教職員：補足するが、この提案書は教職員による統一見解ではない。教職員対象にアンケートを行い、多かった意見を拾ってまとめたものである。意見の異なる教職員もいる。それをふまえ、「一緒に学校を良くしていこう」という視点で学校会議について考えて欲しい。
- 生徒：関心の低さについて、身内（当事者）なので、「傍観者」という表現は変である。「興味のない人」と言うべきである。
- 生徒：学校会議で話し合ったことを、保護者にメール配信すれば、関心が高まるのではないか。
- 議長：次に、保護者側からも同様に、教職員からの提案書の内容についてご意見を頂きたい。
- 保護者：参加している生徒は育っているが、それ以外の生徒に効果がないというのは実感として感じる。「～して欲しい」ばかりということも良く分かる。保護者としても関わりたい気持ちはあるが、生徒と先生の関係が一番大切だと考えるので、生徒は先生の方に学校を良くするための意見をどんどん出して欲しい。
- 保護者：保護者からの関心を高めるためには、学年ごとに言いたいことのアンケートをとるのはどうか。
- 保護者：ルールを決めるばかりではなく、結果が出なくても、意見交換すること自体が相互理解を深めることにもなるし大きい意味があると思う。
- 議長：参加している人以外の関心が薄いというのは3者とも問題点だと思う。関心を高めるための方策や、良い学校づくりとは何か、議題についてはこうあるべきだなどご意見を頂きたい。
- 保護者：オブザーバー発言を認めるというのは良い。議長が指名して発言するという形をとれば、混乱はないのではないか。
- 議長：今オブザーバー参加をされている方の中で、発言したいという方は挙手をお願いします。  
(3者とも数名が挙手)
- 議長：今回はオブザーバーに発言を許可することはできないが、次回以降、発言できるように考えたい。
- 議長：メール配信による情報伝達・各学年団で意見をつのる・オブザーバー発言を認めるなど様々な意見が出ました。
- 議長：18:00実施について意見ををお願いします。授業時間帯に実施すれば良いのではという意見もありますが、これは特に保護者の方にとってはどうでしょうか。
- 保護者：平日の昼間だと、参加できる保護者は限られてくるだろう。以前、生徒全員を参加させようということで、授業時間帯に体育館で学校会議を実施したとき、私語をする生徒も多かった。オブザーバーに発言権を持たせればそういうことは減るのではないか？
- 議長：議題についての意見ををお願いします。どんな議題を出すべきか、討論会・座談会のような形式についてはどう考えるかなど、ご意見を頂きたい。
- 生徒：「～を一緒にしていこう」というのは、教職員は何を一緒にしたいと思うのか？
- 教職員：その意見は自分の意見ではないので、想像で話すが、「遅刻ゼロ100日達成」とか、「不祥事ゼロ」「校区内美化運動」など、そういうスケールの大きいことについて、生徒側の提案として自発的に出されならば、こ

れほど素晴らしいことはないと思う。

- 生徒：校則を変えることに、教職員は反対なのか？
- 教職員：個人的見解だが、時代にそぐわないものや、本当に困っていることについて改善していくことは大いに結構だと考える。
- 保護者：校則改定とルール作りに重きをおいた提案になるのは、生徒の関心事項がそこにあるので、結果として仕方がないと思う。ただ、もう少し違う観点からの意見も欲しいというのが教職員側の意見だと想像する。
- 教職員：議題については本当に大切なことを提案すべき。教師や保護者からの提案が今まで不足していたのではないかとこの反省もある。
- 生徒：5年目だから何かしようというのは変。その時に必要とされることを議題として出すべきである。
- 議長：活発な意見が聞けて嬉しい。これからの話し合いを深めていくために、3者での小委員会を設けることを了承して頂けるか。

(合意)

#### 5) 指導助言から

- ① いろんな意見があった。それぞれの立場の考え方が様々だと感じた。社会においてもそれはそうであり、違う意見とどう折り合いをつけていくか。(一部の人間だけでなく)そのなかでどう合意をしていくのかが大切。これが学校会議の根底。
- ② 学校会議のあり方について、しくみというものは変えていかなければいけないものだと感じた。マイナーチェンジも含めて大きな意味のあることだ。学校会議がパワーアップする原動力になる。
- ③ 関心の差はどこにでもある話だ。人間の知恵は無限。いくらでも方策は浮かんでくるだろう。

学校会議が次の段階に入ってきたのだと感じる。今後の展開が楽しみである。

#### 6) 学校長あいさつ

5年目だからと提案するのは…という意見が出たが、それは誤解である。今まで運営してきた中で、改善の必要があると感じ、見直す必要があると考えている。以前、体育館で生徒会が、学校会議に関する臨時生徒総会をした時に、学校会議に関するアンケートを配布したが、丸めて捨てたり、紙飛行機にして飛ばしたりという姿が見られ、関心の低さを痛感した。

これまでの学校会議で合意して決まってきたルールについて、生徒がきちんと守れていないということであったが、権利を得たならば、それ相応の対価は必要である。3者で合意し、作り上げてきたルールは尊重されるべきであり、守られなければならない。

赴任以来、1年あまり、毎朝正門で挨拶運動を行っているが、未だに挨拶を返してくれない生徒もいる。生徒の意見で、生徒だけでは解決できない問題があるという意見が出たが、同じように、教職員だけでも、保護者だけでも解決できない問題がある。そういう意味で、「～を一緒にしていこう」ということである。

良い学校とは、生徒・教職員・保護者が互いに尊敬しあえる学校だと考える。特に、生徒・教職員の両者が、通い、勤めている中で、志度高校はエキサイティングで面白い学校であると感じられるならば、それが良い学校ということである。「～を許して下さい」というのではなく、お互いが構えることなく楽に話ができる空間作りを、3者で一緒に頑張っていきたいと思う。

以上、志度高校学校会議で協議された内容について報告致します。

志度高校学校会議事務局

---

---

---